

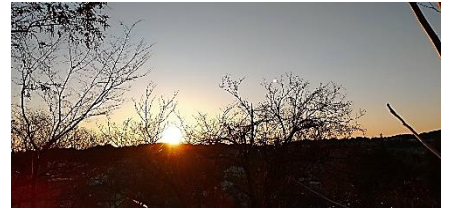


自公政権以前は軍事費より多かったのに4.2兆円も少なくなった防災予算

【出所】防災関係予算は内閣府「防災白書」2023年版。軍事費は防衛省の当初予算。政権区分は予算を決めた年度



(国公労連の雑誌「KOKKO」編集者・井上伸氏作成資料より転載)



2024年を希望ある年に

穏やかな正月。晴天の子角山で初日の出を仰ぎ、平和と幸せの実感できる年になるようにと願ったのに、能登の大地震と航空機炎上。次第にわかる地震被害の

甚大さに言葉を失い、正月気分は吹っ飛んでしまいました。



水仙が咲き
始めました

直ちに全力で被災地に行かなくていいのか。初動の遅れは明らかです。示すことは極めて重要」と訓示。

自衛隊はこの災害時に「降下訓練始め」という軍事訓練を7日習志野演習場で行ないました。木原防衛相は「災害対応は待ったなしだが、他方国の守りは揺るぎないこと、同盟国との協力を内外に示すことは極めて重要」と訓示。

簡易スペースを確保する段ボールハウスが2万円。アメリカから買った欠陥機オスプレイが7機3600億円。1800万個備蓄できる計算になります。

安倍政権前の2012年には軍事費より防災費がまだ多かったのです。自公政権のもとで、現在倍増する軍事費の1/4にも満たない防災予算です。避難所は国際水準にほど遠く、難民キャンプより劣悪といわれます。自助共助ばかりが強調されますが、必要な公助の立ち後れは、災害列島でありながら脆弱な危機管理への備えを露呈させています。

イスラエルとこれを擁護するアメリカは孤立

イスラエルがハマスの奇襲を受け、ガザへの軍事攻撃を開始して3ヶ月。民間人を攻撃対象にすることを禁じた国際人道法を踏みにじり、難民キャンプ、病院、学校までも無差別攻撃してきた結果、2万2700人を超す犠牲者のうち1万人近くが子ども、7000人近くが女性です。

ハマセン滅と言う理由でのジェノサイドは憎悪と新たなハマスをうむだけでしょ。イスラエルの国際的孤立が深まっています。ガザに平和を！！

志賀原発のある志賀町の地震動は2828ガル。建築基準法では1500ガルが耐震基準ですが、ハウスメーカーは3000から5000ガルにも耐えられる設計をしているそうです。1000ガルを超す地震は2000年以降20回ほど起こっています。対して、原発の基準地震動は1000ガルに満たない。北陸電力からの志賀原発の状況説明も2転3転していますが、敷地内に断層のある原発が大事に至らなかつたのはただ東日本大震災以降ずっと停止していたからに他なりません。

今回も原発のオイル漏れ、停電が起こりました。道路の寸断による孤立、大規模火災、津波被害、地殻変動、どれを取ってみても、

改めて原発の危険性を思う。地震と原発災害が同時に起きれば手の施しようがありません。浜岡も例外ではありません。多大な労力を使い作っている広域避難計画（富山への避難）などできっこない話です。



「20歳のつどい」会場
近くで新春の宣伝

今回の地震は、「地震列島日本」に原発はムリ。この現実を国民の前に再度さらけ出しました。次の地震は私たちのところかも浜岡原発の再稼働に反対です。



大根とかぶ以外は庭で調達七草